

2015年10月13日

内閣総理大臣 安倍晋三 様
参議院議長 山崎正昭 様
衆議院議長 大島理森 様

日本基督教団大阪教区
総会議長 小笠原純
常置委員会

「安全保障関連法」強行決議への抗議声明

この度の「安全保障関連法」の採決に深い悲しみと怒りを持って抗議し、法律の廃止を求めます。

日本国憲法には、明確に記されています。「第9条 1. 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。 2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。」

武力によって平和は得られません。わたしたちの神、わたしたちの救い主が示された平和と愛の世界は、非暴力と謙遜によるものです。わたしたちの闘いは知恵と言葉によるものであり、力と傲慢によるものではありません。わたしたちは、自らの愛する親しいのちのためだけに闘うのではなく、すべてのいのちと尊厳のために闘っています。安倍首相、あなたが人を殺めることのないように、そして、わたしたちの子どもたちが、いのちを奪うことも奪われることもないように、言葉をもって闘います。

本来、議会制民主主義とは、言葉によって平和を生み出す場でありました。わたしたちは信頼をもって、わたしたちの声を届けるために代表者を政治の場へと送り出していました。しかし今、政治に携わる多くの人々の耳は閉ざされ、わたしたちの声を聞こうともしません。誠実さが失われ、偽りとウソと誤魔化しが蔓延し、誠実な応答一つ見られない与党のあり様に、そして、国民の知る権利を剥奪し、世論へ政治実状を伝えさせない報道へのあり様にも、怒りを持って抗議します。

憲法に違反し、主権者たる国民の声を無視し決議された「安全保障関連法」は、その内容も、その採決に至る経緯も、到底認められません。日本国憲法前文において、わたしたちは「国際社会において、名誉ある地位を占めたい」と宣言しました。それは日本国に住む者のみならず、日本国籍者のみならず、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利」を行使することのできる国際社会の実現を、武力を否定する観点で作られた憲法第九条のもと目指すことでありました。どうか、誰一人のいのちをも脅かされることのない平和を創り出す行いをしてください。

わたしたちキリスト者は、愛に基づく平和を求める宗教者として、この度の「安全保障関連法」の廃止・撤廃を求め続けると共に、今後も戦争に繋がるあらゆる行為に対して抗議と反対の声を挙げ続けます。そして、武力に頼るのではなく、愛と言葉によって平和を創り出す行いを求め続けます。

■平和を求め祈り続けましょう

『安全保障関連法』強行決議への抗議」にあたって

大阪教区は、2015年5月に「『安全保障関連法案』の閣議決定の強行に強い憂慮の念を表明します」を、そして7月に「戦後70年の平和メッセージ」、および「『戦争法案』廃案のために祈りましょう」を呼びかけ、皆さまと共に地上の平和を祈り続けています。しかしながら、日本に住む者のみならず、世界中から寄せられ続けた「反対」という人々の声は無視され、9月18日(19日未明)、「安全保障関連法案」が、参議院にて採決され「平和と安全法制」が成立してしまいました。わたしたちの平和憲法を^{ないがしろ}蔑にしたこの暴挙に、多くの人々が涙し、また落胆が叫ばれました。

それでも、今もなお、施政者によって「安全保障関連法」と名付けられている、武力と戦争に向かわんとするこの法制度に対して全国各地で「絶対反対」の声は挙げられ続けています。「ウソで固められた世の中で、本当のことをいい、本当のことを行うにはどれほど勇気がいることか。理想を実現するためには決断的の勇気が必要だ。実に幻(理想)プラス勇気こそ信仰だ」と言われたフォズディック牧師の言葉を思い起こします。

わたしたちの主イエスは、誰ひとりのいのちをも軽んじてはならないと、その生涯をもって示されました。その死を、権力者による最後の犠牲とするために、わたしたちを変えてくださったはずです。主イエス・キリストがわたしたちに教え示された、天の国を、愛による平和をこの地に実現するために、平和を求める全ての人と共に心を合わせ、これからも祈りと勇気を携えて共に歩み続けて参りましょう。

今、大いなる反省を持って、自らにも問わざるを得ません。70年前の戦争による数えきれないほどの痛みの叫びに真摯に耳を傾けていたか。68年前の平和憲法の誕生の喜びを心に深く刻み伝えてきたか。確かにこの「安全保障関連法」の成立は、わたしたちの愚かさが招いた、これまでの生き方への結果だと言えるでしょう。だからこそ、今、心から怒り抗議します。わたしたちの子どもたちが、わたしたちに勇気を与えてくれたのです。いのちを脅かされると感じた若者たちは「戦争法」に対して不安と疑義と反対を叫び、「わたしたちを守って！」と声を挙げました。真の平和を問うた多くの若者たちの言葉が、施政者の耳や心に届かなかったとしても、わたしたちは、あの声を忘れてはなりません。かつて教会の使命を怠り、国策に協力した過去を再び思い起こし、今こそ、わたしたちは平和の神へ悔い改め、この地に平和を創り出す使命を託されていることを深く自覚しつつ、いのちを脅かすあらゆる暴力と権力に否の声を挙げ、主の平和を共に祈り続けてまいりましょう。

2015年10月13日

日本基督教団大阪教区 総会議長 小笠原 純
常置委員会